

アレルギーの子どもたちに喜々とした生活を！

私は現在、奈良県の天理よろづ相談所病院で小児科医として働いています。病院では一般小児科診療とともに、アレルギー診療を専門にしています。学会活動では、4000人もの会員を擁している日本小児アレルギー学会の理事として、学会運営にも携わっています。また昨年（2015年）11月21日と22日には、第52回の学術大会を主宰しました。JR奈良駅の近くのなら100年会館、ホテル日航奈良、奈良市保健所はぐくみセンターの3施設、9会場で開催し、全国から2100人を超える方々に集まっていただきました。海外からも20人近くの方が参加されました（第52回のホームページ：<http://jspaci52.umin.jp/>）。



左の写真：第52回学術大会のテーマとポスターに用いたイラスト。右の写真：学術大会での会長講演。

小児アレルギーの分野では現在、食物アレルギーが問題になっています。3年前に調布市で学校給食の誤食が原因で女兒が亡くなり、それがきっかけとなりました。奈良県教育委員会でもアレルギーの子どもたちが安全に、また安心して学校生活を送れるように努力されていますが、私もその中の委員として、またアレルギー専門医として学校に出張するなど、さまざまな企画に参加しています。

またアレルギー疾患ではスギ花粉症で悩んでいる方も多いと思いますが、最近ではスギのエキスを舌下に滴下して治療する舌下免疫療法が行なえるようになりました。舌下に投与してスギアレルギーを克服しようという治療法です。ダニ舌下免疫療法も可能になり、話題の一つになっています。

いくつか本も執筆していますが、一般的な育児書として監修に携わったのが、「子どもは素晴らしい—お母さんとお父さんの子育てのために—」です。本のタイトルも私が命名しま

した。10年前の発刊ですが、決して内容的には廃れていません。各分野の方々からのメッセージも素晴らしいです。また私の京大小児科の先輩である末廣豊先生が監修で、私も分担執筆した「小児アレルギー診療ブラッシュアップ」は、小児アレルギーについてのまとまった参考書です。



左の写真：子どもは素晴らしい。右の写真：小児アレルギー診療ブラッシュアップ。

私は天理地区医師会の理事も務めていますが、天理市教育委員会で立ち上げられた「いじめ・問題行動等対策委員会」のメンバーでもあります。学校生活でのいじめが原因で自殺してしまう子どもも全国で後を絶ちません。殺害されるという痛ましい事件も発生しています。どうしてもいじめられっ子に目が向きがちですが、いじめっ子もさまざまな問題を抱えています。天理市で発生している学校での問題行動について対策を立て、アドバイスしています。

私が幼稚園から小学校、中学校を経て、堀川高校で学んでから40年以上が経ちました。その当時は堀川高校にもまだ学園紛争の余韻がありました。今の子どもたちは我々のときとは違って、ネット社会が中心になり、地域社会の人と人との繋がりが弱くなっています。我々が辿ってきた学校生活を振り返り、またその後40年の長い経験を生かして、現在の子どもたちに、何か少しでも救いの手を差し伸べていきたいと思っています。



白衣姿の私。26期生 南部光彦